

天塩川 NEWS

流域委員会ニュース

VOL2

『第3回天塩川流域委員会が平成16年10月4日に開催されました！』

【天塩川流域委員会とは？】

- ・北海道開発局は「天塩川水系河川整備基本方針」に基づき、「天塩川水系河川整備計画（大臣管理区間）」を策定するにあたり、学識経験者等からご意見をいただくことを目的として「天塩川流域委員会」を平成15年5月30日に設置しました。



▲第3回天塩川流域委員会の様子

●第3回 天塩川流域委員会では以下のような事が議論されました。

■主な意見

【天塩川流域委員会の開催について】

- ・約1年間流域委員会が開催されなかった経緯は何か。

【天塩川水系河川整備計画資料について】

- ・流域懇談会でまとめた提言が今回の資料にどのように反映されているのか説明してほしい。
- ・流域懇談会の議論を復習するのではなく、2回の流域委員会の議を経て提案された資料について議論するほうが建設的である。

(流域の概要)

- ・農作物収穫量の概要説明には、治水、利水等に密接に関連する水田とコメのデータを加えるべきである。また、流域の主要産業である畜産、酪農、牧草収量についての資料が必要である。
- ・洪水状況で、内水氾濫と外水氾濫を区別し、状況がわかるようにしてほしい。また、治水事業の進捗がわかるようにしてほしい。
- ・サケ、サクラマスなどの遡上河川として、産卵床の分布や遡上数、捕獲数についての資料が必要である。

(河川整備基本方針)

- ・基本高水の算出についてもう少し説明してほしい。
- ・災害発生の防止又は軽減に関する基本方針の内容に、「流域の貯留・保水機能の維持・増進を図る。」と言った趣旨の文言を入れるべきである。

(治水)

- ・大臣管理区間と知事管理区間とで調整が図られているはずで、そこが分かる説明が必要である。
- ・サンル川にある指定区間外区間とダム予定とのかかわりを教えてほしい。
- ・名寄川の既往洪水について説明してほしい。
- ・流域懇談会の時に、土砂がダムに捕捉されるとの意見があつたので、治水対策案のケース1に付け加えてほしい。

- ・治水対策案のケース2では、サケの産卵床を保全できないとなっているが、治水対策案の各ケースで掘削の方法を教えてほしい。

- ・「各治水対策案の概要」は当面30年の整備計画の概要であるが、基本方針の流量が流れるためには、完成型にしなければならない。このときのトータルコストを説明してほしい。

- ・既往洪水における岩尾内ダムの調節量について、説明してほしい。

- ・ショートカット前後で流量などがどう変わるのが教えてほしい。

- ・各洪水対策案には河道掘削の他、堤防の整備を含むのか。

- ・流下能力図に示しているように、河川改修をすると直線的な流下能力になるのか。

(利水)

- ・正常流量の基準点を決めた理由を説明してほしい。

- ・遊水地案において正常流量が確保できない理由を教えてほしい。正常流量を確保できない場合の河川環境に与える影響がよくわからない。

- ・岩尾内ダムの下流に水が流れていない区間があるが、岩尾内ダムがもう少し柔軟に対応できれば、渇水時の対策ができるのではないか。

- ・岩尾内ダムの弾力的管理の中には、農業利水についても検討する余地はあるのか。

- ・天塩川の観光を考えた場合、上流は水量がなく、下流は水量が豊富であるが、良い調整方法はないものか。

- ・正常流量は各ポイントの流量が確保されていれば良いというだけではなく、農業施設や利水施設があるときは、水深等を含めて保全することが必要である。

(環境)

- ・現状の河畔林はヤナギ林が多く、本来の自然環境とは変質しているので、河畔林の良い面だけでなく、悪い面も記載してほしい。

- ・魚道の整備箇所とその整備方針について教えてほしい。
- ・サンルダムの環境影響評価が完了しているということなので、内容を教えてほしい。
- ・旧川の蛇行復元や水質改善などについても検討する必要があるのではないか。
- ・環境についても「配慮する」「考慮する」だけではなく、具体的な目標を設定できないか。
- ・治水対策に余裕があれば、環境に配慮するのではこれまでと変化がない。自然環境の保全・復元と治水・利水を調整する方策が必要ではないか。
- ・「川の駅」や岩尾内ダム直下からのラフティングが出来る環境整備について河川整備計画に盛り込んでほしい。
- ・主な旧川について、その機能を整理してほしい。
- ・環境整備の目標として、魚類の移動経路の確保程度の表現で良いのか。再生産を可能とするような河川環境の保全が最終的な目標になるのではないか。
- ・流域の自然生態系の特徴や生物の多様性の保全・復元をベースにした上で、特定種、貴重種を見る視点が必要ではないか。
- ・天塩川には以前、チョウザメが生息していたという恵まれた環境を有していたことを記載してほしい。
- ・サロベツ川については、関係機関と連携して施策を進めて行くことを記載してほしい。
- ・人と河川のふれあいについて、人が安心して川で遊べる水質を確保するという目標を掲げる必要があるのではないか。水質についてはCODの資料も必要である。

(維持管理)

- ・倒伏した河道内の樹木は、洪水時に流出し下流の漁業等に被害を及ぼすので、適切な対策をとることが必要である。
- ・河道内樹木だけではなく、山の樹木も流出している。管理をどうするのか考え方があれば、説明頂きたい。

【その他】

(委員長提案) 意見聴取会の開催について(案)

- ・開催時期は整備計画の議論がある程度進んだ時期に行うことで前回議論したことから、次回以降の方が良い。
- ・1回だけではなく、複数回開催してはどうか。
- ・対象者は、流域住民で良いのではないか。
- ・流域住民を中心として、流域外の方も排除しない方が良い。

■議事結果

【天塩川水系河川整備計画資料について】

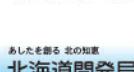
- ・委員会終了後に生じた意見・質問は清水委員長へ連絡する。
- ・各委員の意見・質問に対して、次回以降事務局より説明した上で議論する。

【その他】

- ・意見聴取会の開催回数は、一度開催し、その状況により判断する。
- ・現地視察会を10月末に予定し、日程調整等を行う。

■第3回流域委員会までの議事要旨、委員会資料については、下記のホームページに記載しています。

(天塩川流域委員会事務局)



旭川開発建設部治水課 TEL 0166-32-1111
旭川市宮前通東4155番31 FAX0166-32-2934
<http://www.as.hkd.mlit.go.jp/>

■天塩川現地視察会について(報告)――

平成16年10月25日(月)に天塩川現地視察会が開催されました。

【視察内容】

○天塩川

士別河川防災ステーション(建設中)、天塩川の河川状況・地形状況・環境整備状況や遊水地案検討箇所について視察が行われました。

[視察箇所:九十九橋(士別市)、曙橋(名寄市)、恩根内大橋(美深町)、音威子府救急内水排水場・篠島橋(音威子府村)]

○名寄川

名寄川の河川状況や遊水地案検討箇所について視察が行われました。

[視察箇所:幕別橋・東橋(名寄市)]

○サンル川

サンル川流域の状況やダムサイト予定地の状況について視察が行われました。

[視察箇所:サンルダム ダムサイト下流側・サンル牧場展望台(下川町)]

「天塩川流域委員会」委員名簿

所 属	役 職	氏 名
北方鳥類研究所 (財)日本野鳥の会旭川支部	代 表 支 部 長	いしかわ のぶお ○石川 信夫
道北観光連盟 名寄市物産振興協会	事務局長 事務局長	いのうえ さちと 井上 幸人
てしおがわ土地改良区	理 事 長	とうつ 梅津 和昭
北海道工業大学工学部	教 授	おかひら とくに 岡村 優邦
北海道大学大学院工学研究科	助 教 授	くろき 黒木 幹男
北海道カナディアンカヌークラブ	代 表	こう 酒向 効
北海道大学大学院工学研究科	助 教 授	しげぞ 清水 康行 ○清水 康行
北るもい漁業協同組合	理 事	すがい しよふみ 菅井 好文
士別市	市 長	たかり 田辺子 進
北海道大学大学院工学研究科	助 教 授	たちな 横山 はるこ 治國
市立名寄短期大学生活科学科	教 授	つじ 辻 玲子
旭川大学経済学部	教 授	でわ 出羽 寛
北海道大学大学院農学研究科	教 授	ながさわ てつあき 長澤 徹明
けんぶち絵本の里を創ろう会 剣淵町議会総務常任委員会	理 委 事 員	ひだ 肥田 照美
天塩町	町 長	ほんだ 本田 善彦
北海道大学北方生物園 フィールド科学センター 森林園ステーション南管理部	教 授	まえかわ こうじ 前川 光司
天塩川を清流にする会	会 長	やまと 山口 研吉

平成16年10月4日現在

「○:委員長」「○:副委員長」、(五十音順、敬称略)